第４学年　学級活動（交通安全）　　　　　　　　　　　　　　　場所：４年２組教室

自動車事故にあわないために

指導者　　増田　奈緒

**１　目標**

　・自動車の内輪差や運転者の死角など、自動車の特性について理解し、道路で安全に行動できるようにする。

**２　新学習指導要領との関連【学級活動】内容（2）－ウ　心身ともに健康で安全な生活態度の形成**

現在及び生涯にわたって心身の健康を維持することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

**３　単元について**

　　児童は、1学期の学習で、映像や具体的な事故場面から危険を予測したり、自転車シミュレータで体験的に学んだりしたことで、安全な自転車の乗り方について学習している。その後、夏休みや２学期を通して、学区域内で自転車に乗る上で危険な場所を調べ、発表を行った。

これらの学習を通して、児童の「交通ルールを守ろう」という意識を育てることができた反面、児童にとっては事故はどこか他人事であったり、自分が交通ルールを守っていれば安全だと考えたりして、事故に巻き込まれる可能性があるという意識をもてていない。

そこで本単元では、自動車の特性を知ることで、交通ルールを守るだけでは防ぎきれない新たな危険について意識させたい。そして、自動車事故に遭わないために、自動車の特性の理解をもとに、危険を予測し、回避するための行動について考えさせる。

**４　主題に迫るための手だて**

・自動車事故の様子や運転者の視点で見た景色の映像などを見せることで、自動車事故が自分の身の周りで起こり得るものだという実感をもてるようにする。

・児童が車の模型を実際に動かすことで、内輪差についての理解を深める。

**５　指導計画（１時間）**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時 | ☆ねらい　○学習活動 | ◎安全教育の視点に立った留意点　■評価 |
| １(本時) | ☆自動車の内輪差と死角を知り、それを踏まえて危険を予測し、回避する方法を考える。○車の内輪差と死角について知る。○事故の場面から予測される危険について考え、それを回避するための方法を考える。 | ◎内輪差や死角によって発生した事故の事例から、自動車がもつ危険性を再認識させる。◎模型を操作させたり運転者から見える景色を見せたりすることで、内輪差や死角についての理解を深める。■設定した場面の危険を予測し、それを回避する方法を考えている。 |

**６　本時の展開**

**（１）ねらい**

　　・自動車の内輪差と死角を知り、それを踏まえて危険を予測し、回避する方法を考える。

**（２）指導の実際**

|  |  |
| --- | --- |
| ○学習活動　・予想される児童の反応 | ◎安全教育の視点に立った留意点■評価（評価方法） |
| ○どういうときに事故が起きるかを考える。　・飛び出し　・信号無視　・ルール違反○自動車の内輪差や死角によって起きた自動車事故の事例から、なぜ事故が起こったのかを考える。自動車の特性を知り、安全な通行の仕方を考えよう。○車が左折するときに前輪と後輪がどのような動き方をするか予想し、ワークシートに記入する。○内輪差の大きいトラックの例を見て、自動車の死角について知る。○映像で見たように、左折しようとしているトラックの横に自分がいるとしたら、どのようなことに気を付けるか考える。　・トラックから離れる。　・運転手から見える位置に行く。○実際に起きた事故のいくつかの場面から予測される危険について考え、それを回避するためにできることをワークシートに書く。　・なるべく車道の近くは歩かない。　・歩行者や自転車は運転手の視線を確認する。　・青信号を渡るときも左折してくる車に気を付ける。○本時の学習を振り返る。 | ◎「危険な場所調べ」や、９月に実施した自転車講習会など、これまでの自転車の学習を想起させる。◎どの事例の被害者も交通ルールを守っていたことを押さえる。◎危険ではなさそうなのに車と衝突してしまった状況から、自動車の危険性をより意識させ、同時に自動車の特性を知る必要性を感じさせる。◎車の模型を実際に動かしたり、内輪差についての映像を見せたりすることで、理解を深める。◎前輪と後輪の距離が長いほど、内輪差が大きくなることを補足する。◎実際にトラックから見える景色を、映像で見せることで、死角に気付かせる。◎内輪差が大きく、死角の多いトラックに対して、どのように気を付けるのか具体的に考えさせるようにする。■設定した場面の危険を回避する方法を考えている。（ワークシート・発言）◎自動車の特性を踏まえて危険を予測し、回避するために、どう行動したらよかったのかを考えさせる。■設定した場面の危険を予測し、その回避する方法を考えている。（ワークシート・発言） |